

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国10年8月) ～下落幅縮小も、先行きは円高が下押し要因に

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コアCPIの下落率は0.1ポイント縮小

総務省が10月1日に公表した消費者物価指数によると、8月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コアCPI)は前年比▲1.0%となり、下落率は前月から0.1ポイント縮小した。事前の市場予想(ロイター集計:▲1.0%、当社予想は▲1.1%)通りの結果であった。

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合は前年比▲1.5%(7月:同▲1.5%)、総合は前年比▲0.9%(7月:同▲0.9%)となった。

コアCPIの内訳を見ると、ガソリン(7月:前年比7.4%→8月:同6.4%)、灯油(7月:前年比18.2%→8月:同17.4%)の上昇幅は縮小したが、電気代(7月:前年比▲0.3%→8月:同1.3%)が1年5ヵ月ぶりに上昇に転じ、ガス代(7月:前年比1.4%→8月:同2.5%)の上昇幅が拡大したため、エネルギー全体の上昇率は7月の前年比3.7%から同4.3%へと若干高まった。

食料品(生鮮食品を除く)は前年比▲1.3%(7月:同▲1.4%)と13ヵ月連続で下落したが、下落幅は前月よりも若干縮小した。

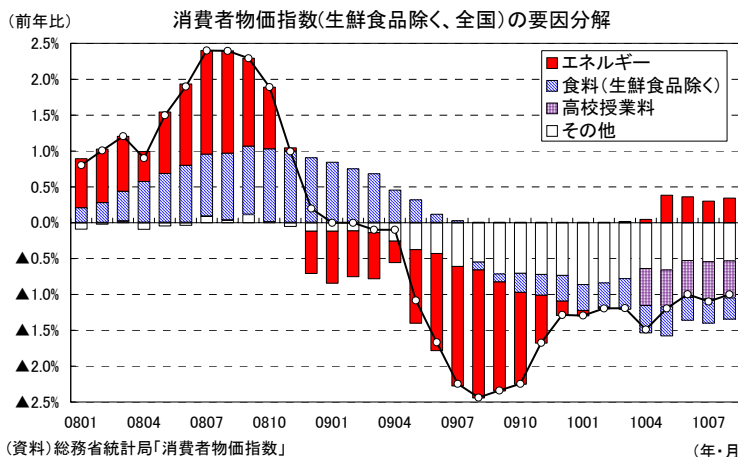
コアCPI上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.34%(7月は0.30%)、食料品(生鮮食品を除く)が▲0.29%(7月は▲0.34%)、高校授業料が▲0.52%、その他が▲0.53%(7月は▲0.54%)であった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

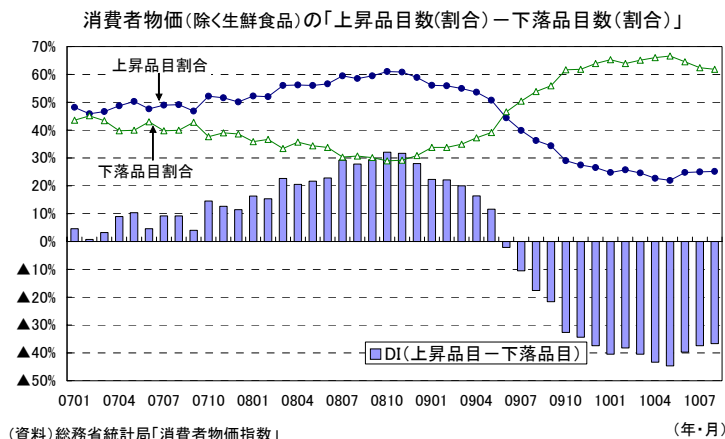
	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
09年 4月	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲0.1	0.0	▲0.6
5月	▲1.1	▲1.1	▲0.5	▲0.8	▲0.7	▲0.9
6月	▲1.8	▲1.7	▲0.7	▲1.5	▲1.3	▲1.0
7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲1.8	▲1.7	▲1.1
8月	▲2.2	▲2.4	▲0.9	▲1.7	▲1.9	▲1.1
9月	▲2.2	▲2.3	▲1.0	▲2.1	▲2.1	▲1.4
10月	▲2.5	▲2.2	▲1.1	▲2.4	▲2.2	▲1.4
11月	▲1.9	▲1.7	▲1.0	▲2.2	▲1.9	▲1.3
12月	▲1.7	▲1.3	▲1.2	▲2.2	▲1.9	▲1.5
10年 1月	▲1.3	▲1.3	▲1.2	▲2.1	▲2.0	▲1.4
2月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.8	▲1.8	▲1.3
3月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.7	▲1.8	▲1.2
4月	▲1.2	▲1.5	▲1.6	▲1.5	▲1.9	▲1.4
5月	▲0.9	▲1.2	▲1.6	▲1.4	▲1.5	▲1.4
6月	▲0.7	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.3	▲1.4
7月	▲0.9	▲1.1	▲1.5	▲1.2	▲1.3	▲1.4
8月	▲0.9	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.1	▲1.4
9月	-	-	-	▲0.6	▲1.0	▲1.3

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」



## 2. 物価下落品目数は3ヵ月連続で減少

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、8月の上昇品目数は132品目（7月は131品目）、下落品目数は324品目（7月は327品目）となった。上昇品目数の割合は25.2%（7月は25.0%）、下落品目数の割合は61.8%（7月は62.4%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲36.6%となり、前月の▲37.4%からマイナス幅が縮小した。



## 3. 10月以降、たばこ値上げがコアCPIを0.3%程度押し上げ

9月の東京都区部のコアCPIは前年比▲1.0%となり、下落率は前月から0.1ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：▲1.0%、当社予想は▲1.1%）通りの結果であった。

円高の進展を反映し、ガソリン（8月：前年比4.0%→9月：同0.7%）の上昇幅は縮小したが、灯油（8月：前年比10.9%→9月：同11.2%）、ガス代（8月：前年比2.4%→9月：同5.0%）、電気代（8月：前年比4.3%→9月：同6.0%）の上昇幅が拡大したため、エネルギー全体の上昇率は8月の前年比3.8%から同4.8%へと高まった。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲1.6%（8月：同▲1.7%）と15ヵ月連続で下落したが、下落幅は前月よりも若干縮小した。

東京都区部のコアCPI上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.26%（8月は0.21%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.34%（8月は▲0.37%）、高校授業料が▲0.38%、その他が▲0.54%（8月は▲0.57%）であった。

景気の回復ペースはこのところ緩やかとなっているが、物価の基調的な動きには今のところ大きな変化は見られない。ただし、円高の進展に伴い輸入物価はすでに前月比で下落に転じており、先行きは円高の影響が消費者物価にも徐々に波及することが見込まれる。また、これまではエネルギー価格の上昇がコアCPIの押し上げ要因となっていたが、ガソリン価格の下落が続いていることに加え、すでに電気代、ガス代は10月以降の値下げが決まっている。エネルギー価格の上昇率は今後、縮小に向かう可能性が高い。

なお、10月にはたばこの値上げが予定されており、これによりコアCPIは0.3%程度押し上げられるため、10月以降はマイナス幅が1%を下回るだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。